



フィリピン、 一期一会の ホスピタリティ

知花いづみ

合計四年滞在した
フィリピンでの生活
のなかで一番心に
残ったのは「ごほん
食べた。(Kumain
Ka Ra Ba?)とい
う言葉である。職場
で同僚と顔をあわせ
た時、大学のキャン
パスで知人と鉢合わ

せをした時、帰り道の途中で友人宅に立ち寄った
時など、よく挨拶代わりにこの言葉をかけられた。
タイミングよくメリエンダ(午前10時と午後三
時のおやつ)タイムに重なれば、手持ちのスナツ
クやパンシットと呼ばれる焼きそばのご相伴に預
かることになる。朗らかな親密さはフィリピン・
ホスピタリティと称され、南国の太陽と同じくら
いの温かみを感じさせた。

自宅に客人を招くことが最大のおもてなしであ
ることは、階層を問わず社会全般で共有されてい
る常識である。大使館勤務時代に上司の鞆持ちと
して参加したある財閥ファミリー宅での夕食会で
は、お揃いの制服を着たメイドがずらりと並ぶダ
イニングルームで何種類にもわたる料理のふるま
いを受け、帰り際にご主人の出身地の名産品をお
土産として渡されるという歓待を受けた。別件で
元下院議長の自宅を訪れた際は(ご本人の過密ス
ケジュールゆえに、お招きを受けたのは開始時刻
が午前七時の朝食会であった)、元議長が自らエ
プロンを着て台所に立ち、ゲストのためにスパゲ
ティを茹でるといふパフォーマンス付きの食事が

振る舞われた。彼らにとつて
は馴染みのない日本人の名前
でも、会話を交わす際は、瞬
時に覚えて一字一句違えず
ファーストネームで呼びかけ

てくるあたりは、親密さを増幅させる心憎い配慮
である。

地方に向くと、こうした歓待のバリエーショ
ンはさらにアットホーム感を増す。数年前、マニ
ラから車に乗って約三時間、さらにそこからバン
カと呼ばれる小さなボートに乗って約二時間のと
ころにあるミマロパ地方のミンドロ島を訪れた際
に、たまたま同じジープニーに乗り合わせ、話が
弾んだ少女から「バス停のすぐ隣に家があるので、
よかつたら寄って行きませんか?」とお誘いを受
けた。初対面なのに図々しいかとは思ったが、ちょ
うど雨が降っていたのもあり、少しの間寄せても
らうことにした。玄関先のポーチで雨宿りをさせ
てもらっていたら、総勢三家族が寄り添って暮ら
すニッパハットの入り口のすぐ側に置いてあった
大型冷蔵庫の中から、ペットボトル入りのコーラ
と箱入りのマカデミアナッツ・チョコレートが運
ばれてきた。来る途中の道路沿いの露天商では見
かけなかったものである。ひんやりと冷えたふた
つ並んで残っていた。日本に帰ればコンビニや自
販機でいつでも買えるおやつだが、彼女の村では
なかなか手に入るものではない。「通りすがりの



車のボンネットも一瞬にしてダイニング・テーブルに早
変わり! (2011年2月、ヴァレンスエラ市にて筆者撮影)。

私たちが
このよう
な貴重な
ものを頂
くなんて
滅相もあ
りませ
ん。軒先
を貸して
頂けただ
けで十分
です。」と
言つて辞

退しようとする、「いやいや、外国から来た客に
何も出さずに帰すわけにはいかない。」と返され、
押し問答となった。結局、最後は有り難くチョコ
レートを一粒頂いて、深謝を伝えておいとしました。

次に訪れた同じミンドロ島の別の村では、最近
電気がようやく敷かれたというこちんまりとした
清廉な家屋に住んでいる家族を訪問した。玄関先
で靴を脱ぎ、きれいに並んだスリッパに履き替え
た後に通されたリビング・ルームは、ご当地の民
芸品や写真立てに入った家族写真で色とりどりに
飾られていて、ソファに腰を下ろすと長旅の疲れ
がひととき和らいだ。私たちが到着すると家のご
主人はさつそく飲み物を出すよう家人に伝えた。
家人が向かった先には雨水を溜めたドラム缶が置
いてあり、足下に落ちていた小枝を拾って缶の縁
をカーンと叩くとその波動でポーフラがわらわら
と底に沈む仕組みになっていた。柄杓で掬われた
上澄みの水を沸かして淹れてくれたのは、フィリ
ピンでは有名な「ウーゴ」というミルクと砂糖入
りのコーヒーである。お茶受けは手作りの黒砂糖
入りクレープで、素朴な味がとても美味しかった。
マニラで受けた豪華な歓待ももちろん嬉しかつ
たが、振り返っていつまでも心に残るのは地方の
村々で示されたささやかなおもてなしの方であ
る。決して多くのものを所有しているわけではない
けれど、いま手許にある最高のもので客人を喜
ばせようとする心持ち、普段はごく貴重で手に
入りにくいものであったとしても、そうした事情
を一切表に出さず惜しみなく客人に振る舞うフィ
リピン・ホスピタリティには胸を打たれるものが
ある。フィリピンをフィールドに仕事をやるよう
になつて早一〇年以上が経つが、フィリピン人の
心根の美しさから学ばせてもらうことは、いまだ
尽きない。

ちばな いづみ/アジア経済研究所 法・制度研究グループ

専門はアジア法(フィリピン)、法と開発。
2009-2011年に専門調査員として在フィリピン日本大使館に勤務。